

令和5年(2023年)中の火災・救急・救助の概要について

火災概要

令和5年中の火災発生件数は27件で、前年と比べ18件の増加となっている。これを火災種別ごとにみると、建物火災が9件で1件の増加、林野火災が1件の皆増、車両火災が3件の皆増、その他の火災が14件で13件の増加となっている。

焼損棟数は14棟で、前年と比べ3棟の増加となっている。これを焼損程度ごとにみると、全焼が2棟で2棟の減少、半焼が1棟の皆増、部分焼が3棟で1棟の増加、ぼやが8棟で3棟の増加となっている。

焼損面積は床面積が669平方メートルで479平方メートルの増加、表面積は1平方メートルで1平方メートルの減少、林野の焼損は1アールの皆増となっている。

人的被害は、死者が1人の皆増、負傷者が2人の皆減となっている。

り災世帯数は、全損が1世帯で1世帯の減少、小損が6世帯で1世帯の減少、り災人員は15人で3人の減少となっている。

損害額は4,637万8千円で、前年と比べ1,259万7千円の増加となっている。これを損害種別ごとにみると、建物損害が4,616万2千円で1,265万6千円の増加、車両損害が2万4千円で20万5千円の減少、その他の損害が19万2千円で14万6千円の増加となっている。

出火原因の状況については、放火が11件、電気機器、たき火、火入れ、その他が各2件、たばこ、焼却炉、ボイラー、電灯・電話等の配線、配線器具、取灰、放火の疑い、不明が各1件となっている。

前年と比べ火災件数は増加しており、放火及び放火の疑いが原因の火災が占める割合が高いことから、今後も更に放火による火災発生防止の徹底を図り、防火広報やパトロールの強化及び警察との連携強化に努めるとともに、市民や各事業所と一体となって、放火されない環境づくりに取り組み、安心・安全な暮らしの実現を目指す。

火災状況

区 分		年 別		令和5年 (2023年)	令和4年 (2022年)	前年との 比 較
		計				
出火件数 (件)	計			27	9	18
	建	物 火 災		9	8	1
	林	野 火 災		1		1
	車	両 火 災		3		3
	船	舶 火 災				
	航	空 機 火 災				
	その他の火災			14	1	13
焼損棟数 (棟)	計			14	11	3
	全	焼		2	4	△ 2
	半	焼		1		1
	部	分 焼		3	2	1
	ぼ	や		8	5	3
焼損面積	建 物 (㎡)	床 面 積		669	190	479
		表 面 積		1	2	△ 1
	林 野 (a)			1		1
人的被害 (人)	死 者			1		1
	負 傷 者				2	△ 2
り災世帯 (世帯)	全 損			1	2	△ 1
	半 損					
	小 損			6	7	△ 1
り 災 人 員 (人)				15	18	△ 3
損 害 額 (千円)	計			46,378	33,781	12,597
	建	物 損 害		46,162	33,506	12,656
	林	野 損 害				
	車	両 損 害		24	229	△ 205
	船	舶 損 害				
	航	空 機 損 害				
	その他の損害			192	46	146
	爆 発 損 害					
1日平均損害額 (千円)				127	93	34
市民1人あたりの損害額 (円)				637	461	176
火災1件あたりの損害額 (千円)				1,718	3,753	△ 2,035
建物火災1件あたりの焼損床面積 (㎡)				74	24	50
出 火 率 (件/万人)				3.7	1.2	2.5

△は減少を示す。

救急概要

令和5年中の救急出動件数は4,396件、搬送人員は4,069人で前年と比べ出動件数は93件の増加、搬送人員は51人の増加で、1日平均12.0件の出動となっている。

事故種別ごとでは、急病3,093件、一般負傷721件、交通事故271件で全体の92.9%を占め、以下、転院132件、労働災害50件、運動競技33件、自損行為29件、加害4件、火災及び自然災害が各1件、その他が61件となっている。

事故種別ごとに前年と比較すると、一般負傷98件、交通事故5件、運動競技3件、自然災害1件、その他が24件の増加に対し、急病20件、自損行為及び転院搬送が各5件、加害4件、労働災害3件、火災が1件の減少となっている。

搬送人員4,069人の傷病程度については、死亡43人、重症142人、中等症1,465人、軽症2,419人であり、入院加療を必要としない軽症者が全体の59.4%を占めている。

事故種別ごとに軽症者の占める割合をみると、交通事故85.6%、一般負傷68.4%、急病56.4%となっている。

医療機関への収容先については、城陽市内45.2%、久御山町内24.3%、宇治市内18.3%、京田辺市内9.2%、京都市内2.6%、その他の京都府内及び他府県が0.2%となっている。

令和5年中の救急出動状況は、前年と比べ出動件数で2.2%の増加、搬送人員で1.3%の増加となっている。搬送人員のうち高齢者の割合は68.9%を占め、前年と比べると0.6ポイントの増加となっており、依然として高齢化社会を象徴する状況が続いている。

また、搬送人員に占める軽症者比率が高いことから、今後も救急車の適正利用について啓発活動を続けるとともに、救急隊現場到着までの空白時間を埋めるため、応急手当普及啓発活動をさらに推進し、救命率の向上に努める。

救急状況

年 別 区 分		令和 5 年(2023年)			令和 4 年(2022年)			前年との比較			
		出動件数	うち 管外	搬送人員	出動件数	うち 管外	搬送人員	出動件数	うち 管外	搬送人員	
事 故 種 別	火 災	1		1	2		3	△ 1		△ 2	
	自 然 災 害	1		1				1		1	
	水 難										
	交 通 事 故	271		263	266	2	263	5	△ 2		
	労 働 災 害	50	1	49	53		51	△ 3	1	△ 2	
	運 動 競 技	33		33	30	1	29	3	△ 1	4	
	一 般 負 傷	721		684	623		594	98		90	
	加 害	4		4	8		8	△ 4		△ 4	
	自 損 行 為	29		20	34		26	△ 5		△ 6	
	急 病	3,093	3	2,881	3,113	5	2,906	△ 20	△ 2	△ 25	
	そ の 他	転 院	132		132	137		137	△ 5		△ 5
		医 師 搬 送									
		資 機 材 搬 送									
そ の 他		61	1	1	37		1	24	1		
合 計		4,396	5	4,069	4,303	8	4,018	93	△ 3	51	
不 搬 送 件 数		345			306			39			
出 動 延 べ 人 員		13,619			13,479			140			
1 日 平 均 出 動 件 数		12.0			11.8			0.2			
1 日 平 均 搬 送 人 員		11.1			11.0			0.1			
1 日 最 多 出 動 件 数		27			22			5			

△は減少を示す。

傷病程度別救急搬送人員状況

傷病程度別 事故種別	急病 (人)	交通事故 (人)	一般負傷 (人)	その他 (人)	計 (人)	比率 (%)
死亡	36	1	2	4	43	1.1
重症	99	5	32	6	142	3.5
中等症	1,121	32	182	130	1,465	36.0
軽症	1,625	225	468	101	2,419	59.4
その他						
計	2,881	263	684	241	4,069	100.0
軽症者比率 (%)	56.4	85.6	68.4	41.9	59.4	

※比率については、項目毎に四捨五入しているため、合計の一致しない場合がある。

収容先別救急搬送人員状況

収容先別 事故種別	急病 (人)	交通事故 (人)	一般負傷 (人)	その他 (人)	計 (人)	比率 (%)
城陽市	1,282	125	363	69	1,839	45.2
久御山町	712	73	156	47	988	24.3
宇治市	551	23	101	71	746	18.3
京田辺市	251	42	59	21	373	9.2
京都市	79		3	24	106	2.6
その他の京都府内	5		2	2	9	0.2
他府県	1			7	8	0.2
計	2,881	263	684	241	4,069	100.0

※比率については、項目毎に四捨五入しているため、合計の一致しない場合がある。

年齢別救急搬送人員状況

年齢別 \ 事故種別	急病 (人)	交通事故 (人)	一般負傷 (人)	その他 (人)	計 (人)	比率 (%)
新生児				1	1	0.0
乳幼児	127	4	56	8	195	4.8
少年	60	24	12	22	118	2.9
成人	638	148	71	95	952	23.4
高齢者	2,056	87	545	115	2,803	68.9
計	2,881	263	684	241	4,069	100.0

※比率については、項目毎に四捨五入しているため、合計の一致しない場合がある。

新生児：生後28日未満の者

乳幼児：生後28日以上満7歳未満の者

少年：満7歳以上満18歳未満の者

成人：満18歳以上満65歳未満の者

高齢者：満65歳以上の者

救 助 概 要

令和5年中の救助出動件数は62件、活動件数は45件、救助人員は31人で、前年と比べ出動件数は7件の増加、活動件数は6件の増加、救助人員は5人の増加となっている。

事故種別ごとの出動及び活動状況では、火災の出動件数が1件で活動件数は1件、交通事故の出動件数が9件で活動件数は5件、建物等による事故の出動件数が29件で活動件数は27件、ガス及び酸欠事故の出動件数が2件で活動件数は2件、その他の事故の出動件数が21件で活動件数は10件となっている。

事故種別ごとの救助人員及び傷病程度をみると、火災では1人を救助し、死亡が1人、交通事故では5人を救助し、中等症、不搬送が各1人、軽症が3人、建物等による事故では19人を救助し、死亡が2人、重症が1人、中等症が4人、軽症、不搬送が各6人、その他の事故では6人を救助し、死亡が1人、軽症が3人、不搬送が2人となっている。

前年と比べ救助出動件数が増加しており、今後も都市構造の変化により複雑多様化する救助事象に対応するため、救助資器材の整備や訓練を重ね、隊員の知識・技術・体力の向上を図り、安全・確実・迅速な救助活動が展開できるように努める。

救助状況

年 別 事故種別	令和5年 (2023年)			令和4年 (2022年)			前年との比較		
	出 動 件 数 (件)	活 動 件 数 (件)	救 助 人 員 (人)	出 動 件 数 (件)	活 動 件 数 (件)	救 助 人 員 (人)	出 動 件 数 (件)	活 動 件 数 (件)	救 助 人 員 (人)
火 災	1	1	1				1	1	1
交 通 事 故	9	5	5	5	3	3	4	2	2
水 難 事 故									
風水害等自然災害									
機械による事故									
建物等による事故	29	27	19	17	15	10	12	12	9
ガス及び酸欠事故	2	2					2	2	
破 裂 事 故									
そ の 他 の 事 故	21	10	6	33	21	13	△ 12	△ 11	△ 7
合 計	62	45	31	55	39	26	7	6	5

△は減少を示す。

事故別傷病程度状況

傷病程度 事故種別	活 動 件 数 (件)	救 助 人 員 (人)	傷病程度						
			死 亡 (人)	重 症 (人)	中 等 症 (人)	軽 症 (人)	そ の 他 (人)	不 搬 送 (人)	
火 災	1	1	1						
交 通 事 故	5	5			1	3			1
水 難 事 故									
風水害等自然災害									
機械による事故									
建物等による事故	27	19	2	1	4	6			6
ガス及び酸欠事故	2								
破 裂 事 故									
そ の 他 の 事 故	10	6	1			3			2
合 計	45	31	4	1	5	12			9